

〔経営状態の問題〕

経営について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

院内会議において、経営改善のための手段を考えることが必要であり、誰が何をいつまでに実施するという具体的な行動や目標を決め、計画に対して実績がどうだったのか検証を繰り返して、PDCAを回して行くと、更に効果が出てくると思われる。

月次の数字を基に、費用を変動費と固定費に分解し、赤字の場合は損益分岐点がどこにあって、収支均衡にするためには、どれくらいの収入が必要だったのか、その収入を上げるためには、患者数や患者一人一日当たり収益をどう改善するのか等、毎月議論して、実行に移してほしい。

また、3 病院で重複している診療科を一つの病院にまとめる等の経営判断をする場合には、各科ごとの収支を出したうえで意思決定することが必要である。

医療の方向性について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

今後も高齢化が続き、高齢者に対する医療については、ある程度需要があると思われる。また国の施策では在宅医療も重視されているので、人材確保面で厳しいという地域特性の中で、在宅医療を実施して行く方策を考えてほしい。

〔人材確保の問題〕

医師の確保について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

常勤医師の異動による、患者数や収益への影響が大きい。経営努力だけではなかなか難しい面もあるので、医師の確保は重要である。医師派遣の依頼に関し、3 病院でそれぞれの特色や強みを示し、それを活かすために、各病院がそれぞれ要望するのではなく、備前市という地域に医師を一人派遣してほしいという形が必要である。

〔人口減少・患者受療動向の問題〕

患者確保策について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

人口は確実に減っていくので、自然と収益が上がることは見込めない。何かに特化して、専門性によって広い地域から患者さんに来てもらうという方法でないと、患者数の増加は望

めないと思われる。

また例えば、介護医療院に転換し、人件費をあまり使わずに、これから需要が増えるであろう介護に対して一步踏み出して考えてみることで、収支のバランスを図るのもひとつの方策ではないか。

今までとは異なる方策で病院を維持し、市民に貢献する、というようなことを検討しなければ、市民の安全安心を確保するというところに至るまでに病院が成り立たなくなる。

公立病院としての役割について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

公立病院には、公立病院ならではの機能と期待する部分がある。救急、地域包括ケア、在宅支援病院としての機能等は必要であるし、研修医や地域の医療スタッフに対する研修、住民への啓発等も重要な部分である。健診に力を入れて増加したり、在宅の患者の急変に対応する等、市民にとっての役割を果たすためにこれだけ努力したということ、評価に記載すべきである。

その他

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

市民満足、利用者満足ということに対し、何をもって満足されているかということをしつかり検討してほしい。

またアンケートで得た入院外来患者の満足度の数字等を基に、要望に対して以前よりも改善された点等を記載してほしい。

〔評価・分析の方法、計画修正等について〕

評価の目的等について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

評価表を作成するのが目的ではなく、これを基に計画を達成して行くのが目的であるので、次への行動に活用できる資料にするために、具体的取組みをもう少し細かく書くべきではないか。

評価に使用している事柄についても、この項目の評価を行うのに適切なものかどうか、改めて考える余地がある。

今後の取り組みについて

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

目標達成できなかった所にはどういう問題があり、なぜ達成できなかったのかという要因を分析して、今の取り組みだけでは達成困難であれば、職員の意識改革も含め、職員がより積極的に参加できる方策を考えていく等の取り組みも考えて行った方が良い。あまりよくなかったというような結果報告だけで終わるのでは、事実だけで、評価ではないと思う。これ

まで通りではなくて、自己分析の一步先の具体的方策というものが必要である。

計画の修正について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

収支計画や目標数値について、計画と実績の間に非常に乖離が出ている部分も見られるので、より現実に沿った形の目標設定の方が良いのではないかと。

また、経営の方向性が抜本的に変わったときには、計画の見直しが必要である。

自己評価の仕方について

【現状とその評価、今後の方向性へのアドバイス】

自己評価について、伸び率に応じてA B C D E判定をしているが、前年比でマイナスでも基準年比からの伸び率で判断したり、3病院中でもっとも低い数値の病院が良い評価であったりすることには疑問がある。ケースバイケースによって、評価の仕方を変えてみるということも必要ではないかと。

各病院、各項目での実情に合った目標を立てた上で実行して行くことが必要ではないかと。